



阿蘇中央病院の新院長に 甲斐 豊氏就任

平成 26 年 1 月 1 日付けで、熊本大学医学部附属病院特任教授の甲斐豊氏が、阿蘇中央病院院長に就任しました。

【新病院の運営方針】

ことしは、阿蘇の住民の皆さん方が熱望されている新しい阿蘇中央病院が新築移転されます。病院の名称も「阿蘇医療センター」に変更されます。この重要なタイミングで、病院の責任者を任せていただけることに対する責任の大きさと、多くの方々からの期待感を痛感しています。

新しい病院は、いわゆる箱モノが新しくなるだけではなく、内容も新しく生まれ変わらなければなりません。阿蘇市民の方から、新しい病院になって本当によかったと言っていただけ

うな体制を創り上げる必要があります。

そのために、「信頼」と「責任」を新病院の理念として掲げ、今まで以上に阿蘇市民の方々から信頼される医療を提供できるよう、阿蘇地域の中核病院としての医療資源を提供するという責任を果たせる病院づくりを進めます。新しく生まれ変わる「阿蘇医療センター」に、どうか大きな期待をしてください。市民の皆さま方からのご意見のひとつひとつが、新しい病院をつくり上げていく礎になります。今まで以上に、私たちに対する厳しいご意見をお願いします。

(氏名) 甲斐 豊 **(年齢)** 52 歳
(資格) 医師 (脳神経外科)、医学博士、日本脳神経外科学会専門医、日本脳神経血管内治療専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医、日本頭痛学会専門医・指導医、ケアマネージャー
(略歴) ●1987 年熊本大学医学部卒業、熊本大学医学部脳神経外科学講座入局 ●1988 年熊本地域医療センター脳神経外科 ●1989 年人吉総合病院脳神経外科 ●1990 年済生会熊本病院脳神経外科 ●1992 年熊本大学医学部附属病院脳神経外科、医員 ●1994 年熊本赤十字病院脳神経外科 ●1995 年熊本大学医学部附属病院脳神経外科、医員 ●2003 年同助手 ●2006 年同講師 ●2012 年熊本大学医学部附属病院脳卒中・急性冠症候群医療連携寄附講座、特任教授

1 救急医療体制の充実

- ▶ 二次救急医療体制の確保 (24 時間の受け入れ態勢の強化、小児救急対応)
- ▶ 災害拠点病院としての機能整備 (D-MAT 体制の構築)

2 地域完結型医療の推進

- ▶ 阿蘇郡市医師会・歯科医師会・薬剤師会、地域医療機関との連携強化
- ▶ 地域医療連携システムの構築 (阿蘇地域病診連携室の立ち上げ)
- ▶ 開放型病床・外来の開設
- ▶ 紹介元への患者依頼の徹底

3 救急疾患 (脳疾患、心疾患) に対する急性期医療の体制整備

- ▶ 脳卒中遠隔診断システムの充実 (t-PA 治療)
- ▶ 急性冠症候群の治療実施 (カテーテル治療)

4 検診業務の充実

- ▶ がん、生活習慣病の予防や早期発見
- ▶ 無呼吸症候群のスクリーニング
- ▶ 人間ドックの充実、脳ドックの新設

5 阿蘇から発信する新しい試み

- ▶ 地域医療機関との患者・画像データの共有化の構築 (ひとりいちカルテ)
- ▶ 病理診断の遠隔診断 (阿蘇中央病院と熊本大病理部)

6 新しい医療機器の導入

- ▶ 血管撮影装置 (バイプレーン)
- ▶ MRI (1.5T) ▶ CT (80 列)

● 阿蘇の印象

夏の涼しさもさることながら、冬の寒さ、特に朝の澄み切った「凜」とした雰囲気がとても気に入っています。

● 趣味・特技について

小学 2 年生から剣道を始めました。現在、剣道教士六段です。3 年後に、七段受験を目指して修業中です。報道道場で毎週月曜日、午後 7 時から稽古に励んでいます。

5年連続最優秀賞 和みの花みち会 道路河川環境美化コンクール



「和みの花みち会」の皆さん

平成25年度道路河川環境美化コンクールで滝水地区の「和みの花みち会」（大塚勝代表、12人）が5年連続で最優秀賞に選ばれました。

本年度は、市内各地から19団体が参加し、地域の特性を活かした環境美化にそれぞれ取り組みました。

大塚さんは「花を植えるだけではなく『道を守る』という観点で挑戦してきた。今後は、記念樹の植樹

●その他受賞団体

優秀賞	内牧花原川を守る会
	うぶさん会
	大道老人会
佳作	古神二区
	野菊の会
	西三区むつみ会
	坂ノ上区老人会
	阿蘇ホテルの会

などを通して地域づくりにも取り組み、高齢化が進み少ない人数であるが頑張ってきた」と話していました。

各学校から持ち寄った意見を積極的に発言し、活発な議論が交わされました。



阿蘇市から「いじめ」を根絶！ 小・中学生が「いじめをなくす宣言」を作成

いじめをなくすための意識化と行動化を図ろうと12月25日、市内小・中学校の児童、生徒37人が市役所に集まり、「いじめをなくす宣言」を作成しました。

各学校でまとめた内容を持ち寄り、グループごとにさまざま意見を交え3つの実践項目を作成。宣言の名称は「ピースフルあそ宣言」つながる笑顔つながる仲間いじめ0にするために」としました。（左記参照）

県教育委員会が、平成24年度に実施した『心のアンケート』で、市内の全児童、生徒のうち「いじめを受けたことがある」と答えたのは、全体の15%にあたる321人。平成24年度末には全て解消しているものの、いじめによる自殺者が全国でも後を絶たない現状に、市教育委員会では今回作成された「宣言」を掲げ、いじめのない学校づくりを目指します。

ピースフルあそ宣言

つながる笑顔 つながる仲間 いじめ0にするために

1 わたしたちは

友だちの気持ちを考えやさしい言葉をかけ合います

1 わたしたちは

お互いの気持ちをわかり合うために思いを伝え合います

1 わたしたちは

みんなが気持ちよくすごせる阿蘇市の学校にします

世界に一つだけの門松が完成しました



「自分だけの門松できたよ」 ミニ門松づくり講座

内牧1区公民館で12月22日、親子連れなど約40人が門松づくり挑戦しました。

自前の門松で新しい年を迎えてもらうと市公民館内牧分館（高宮晴夫館長）が初企画。県立菊池少年自然の家のスタッフによる指導で、孟宗竹をのこぎりで切る作業から始め、思い思い

に飾り付け高さ30センチ、直径15センチほどのミニ門松を完成させました。参加した子どもからは「竹を切るのが難しかったけど楽しく製作できた。自分の家に飾ります」と満足したようでした。

日本を代表する 指揮者が母校を訪問

黒岩英臣氏が児童と交流

日本を代表する指揮者の黒岩英臣氏が12月16日、幼少時代を過ごした宮地小学校を訪れ児童たちと交流しました。

黒岩氏は、当時の宮地幼稚園から宮地小学校3年の途中までを阿蘇市で過ごし、その後、指揮者として多くの楽団で指揮を務め、テレビ番組などにも出演。現在は山形交響楽団の名誉指揮者として活躍しています。

振り返ったり、指揮者になった経緯や指揮の執り方を教えたりするなどして児童らと交流しました。

終わりに、全校児童が歌う校歌と「ふるさと」の指揮を執り音楽を通じて交流を深めました。黒岩氏は、「みんな元気が良くてすごく楽しかった」と久しぶりの母校を懐かしんでいました。



黒岩氏の指揮に合わせ合唱する児童たち